

カミノトピックス

4月
入学、入社式

米粒から大きな成果へ

今回ご紹介するのは、皆さんも必ずといっていいほど目にしている「ペットボトル」の製造を行っている、北広島市共栄に工場がある『ワイディープラスチック株式会社』様です。創業は1974年、当時はビールコンテナの製造が中心で、1984年にペットボトルの製造をはじめ、1994年に現在のペットボトル専用工場になったそうです。

ペットボトルは、「容器が割れる」「容器が重たい」などの消費者の声をもとに開発されたそうです。さて、皆さんはご存知でしたか？ ペットボトル（500ml）1本を作るには、米粒くらいの原料 25g 位を溶かし、試験管状のものを作り、その後、専用の型に入れ膨らませ完成。この間わずか数秒の工程だそうです。技術も進化し、様々な形のペットボトルが、それぞれの用途にあったサイズ、製造工程を経て、私たちのもとにやってきます。何に一番気を使っているのか伺ったところ、

「やはり食品に係ることなので「衛生」です。製造は殆どが機械で行われていますが、社員には体毛が落ちないよう専用の作業着を着てもらっています。」とのことでした。昨今、「食の安全」が大きな問題となっていますが、直接の食品ではなくても「安全重視」がここでも感じられました。

しかし、何気なくいつも手元にあるペットボトルが米粒ほどの大きさで、それも瞬時に作られ、そして消費者の声が反映されていることに、何気なく扱っていたペットボトルに「ありがとう」です。

談：R&R・坪井



PET

※ペットボトルは大事な資源です。

このマークのついているものはリサイクル可能です。

使用後は中をゆすいで資源ゴミへ。

ペットボトルは多くの商品に再利用されています。



用途に合わせて大きさや形状が違うペットボトルたち。ペットボトルを見ていると、中身が見えてくるような気がします。



みんなで...

4月1日、千歳に新しく子育て総合支援センターがオープンします。施設の愛称は「ちとせっこセンター」といいます。このセンター内には、「地域子育て支援センター」「末広保育所」「ちとせっこ児童館」「ちとせっこ学童クラブ」等があり、保育所は市立の認可保育所では初めての0歳児保育を始めるそうです。

児童館内には球技やスポーツを楽しめるゆうぎ室があり、図書コーナーにはパソコンも設置してあり、広くてきれいで楽しい空間になっています。

千歳市は転勤世帯が多いと聞きます。私の周りにも親元を離れ子育てしている知人がおります。地元にも両親がいる家庭は、時に助け合って子育てができるのですが、その環境がなく、自分の生活に、そして子育てと両立するには厳しく難しい事も多々あります。誰かに相談したい、誰かに話を聞いてほしい、そんな子育て奮闘中の皆さんの相談にものってもらえます。子育てを「自分だけで」ではなく「いろいろな係わり」で、親もそして次世代の金の卵もいつも元気に健やかにいられますように。大人も子供も笑顔でいられることが一番！そう実感する今日この頃です。

談：ES・兼澤



ちとせっこセンターのマーク。千歳の市章とかわせみをモチーフに作られたそうです。



「幼稚園」と「保育所」の違い・・・
保育所は、保護者が働いているなどの理由により1日預り養育する、厚生労働省が管轄する施設です。
幼稚園は、満3歳から小学校就学までの幼児を保育、教育する文部科学省の管轄する施設です。

明るく開放的の作りになっていました。
子育て支援に対するサポートや取り組み、サークルの立ち上げのお手伝いも相談にのってくれるそうです。

まずは、試してみませんか。

ますが、

